

富山経協



ダイダイの実 (解説・19ページ)

CONTENTS

- 2 理事会、東部地区会員懇談会 (報告)
- 3 講演会 (要旨)
『Change for Value Creation』への挑戦
- 4 Top Interview
アルカスコーポレーション 岩崎弥一社長
- 6 労働指標
- 7 事業活動報告
- 8 委員会活動
- 11 講座・セミナー
- 12 参加者NOTES
- 16 見学会
- 18 会員の動き
- 20 おしらせ・事業予定

理事会

11月8日(金)16時から、金岡会長はじめ理事総数12名中8名、監事総数4名中1名が出席して、11月理事会をホテルグランミラージュ2階「花かすみ」で開催した。

金岡会長が議長となり、①事務所の今後について審議し、全員異議なく承認された。続いて、来期の協会活動テーマと今後の行事予定について報告があり、16時25分に終了した。



東部地区会員懇談会



井上副会長の開会挨拶



来賓の山崎副知事



金岡会長の乾杯発声



中西理事の中締め

11月8日(金)16時30分から、ホテルグランミラージュにおいて113名が参加して、東部地区会員懇談会を開催した。

第1部の講演会では、トピー実業(株)常務取締役 山崎達也氏に「『Change for Value Creation』への挑戦」と題して、同社の働き方改革への取り組みと解決すべき課題について、講演をいただいた。(講演要旨は3頁掲載)

第2部の懇親会では、東部地区担当の井上副会長が、香港と中国の2回の海外勤務の経験談を交え、時代ごとの企業活動と人事制度改革に関して、平成の30年を振り返った。その上で、「社員一人ひとりが意識を持って、素晴らしい職場作りをして、能力を最大限に発揮できる環境を作らなければならない」と語り、「会員企業がいろいろな情報を提供し合って、さらなる改革を進めて欲しい」と開会の挨拶をした。

来賓を代表して、山崎副知事は、日本列島を襲った台風被害の大きさに触れ、「復旧復興対策を進め、未来への投資、成長力を強化して、景気の下振れ対策にも取り組んでいきたい」と挨拶があった。



続いて、金岡会長が、北陸新幹線車両の水没や首里城の火災を教訓に、「日本の組織の欠点は、万が一を考えないこと。経営陣の皆さまは、万が一を頭の片隅に入れておいてはどうか」と話し、乾杯の発声をした。

和やかな懇談が続き、中締めとして、中西理事が来年度の経協活動を念頭に、「働き方改革のテーマをさらにバージョンアップして、今後の経営に役立てていただきたい」と挨拶し、一本締めを行い散会した。

『Change for Value Creation』への挑戦

～トピー実業の働き方改革への取り組みと解決すべき課題～

講師 トピー実業株式会社 常務取締役
山崎 達也 氏



当社の10年先のあるべき姿を目指すため、2019年4月に中期経営計画を策定した。実行には社員が意識転換して価値を見出す行動をとれるかが重要であり、働き方改革による法改正を、内部改革するためのいい起爆剤と捉え、前向きに働き方改革を進めている。

I 働き方改革推進のねらい

中計のスローガンは「Change for Value Creation」、新しい価値を創造するために変わっていこう。労働生産性の向上で社員に「余力」を生み、ICTを活用して業務効率の向上、社員の「ワーク・モチベーション」の向上にねらいを定めて取り組んでいる。

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、従業員はもちろん、経営者側が労働時間に対する意識を変えないといけない。当社では経営会議で労働時間問題を取り上げ、残業の多い部門の担当役員は解決策を出すことになっている。

当社の働き方改革を整理すると、法令改正については当然[Must]で対応する。やろうと思えばすぐにもできることを[Can]として就労環境の整備などを。そして、難しいがしなければいけないことを[Should]とし、業務改善や効率化に取り組み始めた。

II 法令改正への対応 [Must]

『時間外労働の削減』については法改正以前から、2009年度末に時間外労働の事前申告、休日・深夜労働の原則禁止などを導入。2014年度にPCログによる時間管理を試行し、昨年度、ERPソフトを導入して始業終業時刻を把握

できるようにした。PCログと残業申告の差が30分以上あった場合は、理由の説明と共に状況によりPCログの時刻を残業実績に変更する運用を行っている。

今後は、「成果のためには時間を顧みない」という価値観を変え、「限られた時間の中で最大の成果を上げる」という価値観に転換しなければいけない。中計の説明と合わせ、社長と私が全拠点を回って会社の方針を説明し、労働時間に対する意識を全社に浸透させるようにした。収益構造を変えるという10年後の目標に対して、社員がその成長を支える担い手になるので、能力を最大限に発揮できる環境をつくりたいと考えている。

『年次有給休暇の取得促進』についても、法改正以前から休暇制度は整備しており、2016年からは年5日以上取得を義務づけ、強制的に休暇をとらせる仕組みも設け、休暇の取得状況は役員会で報告することになっている。

『労働時間管理のその他の施策』として、時間外労働は一般社員が減った分、管理職の負担が増えていることが大きな課題だ。

ストレスチェックを年2回行い、ストレス度合いと時間外労働の長さから因果関係が見られたことから、集合研修を行い、健全な職場に向かうための仕掛けを設けている。

『同一労働同一賃金』は、当然、正社員と非正規の職務内容は異なるが、実態は、仕事ができるがゆえに幅が広がっている非正規もい

る。来年4月以降の同一労働同一賃金を踏まえ、総合的に具体的な対応を細かく検討し始めた。

III 就労環境の整備 [Can]

時間や場所の制約を最小化する「在宅勤務制度」「サテライトオフィス」、多様な就業ルールとして「フレックスタイム制の再導入」「時間単位の有給休暇制度」「失効年休積立保存休暇制度の改正」、オフィス面では、IT技術を活用して「ペーパーレス化」、集中して仕事を行うための「独立型ワークブースの設置」などを検討している。

IV 業務改善・効率化の推進

[Should]

働き方改革を実現させていく上で「業務改善・効率化の推進」の仕組みづくりは極めて重要だ。

まず、自社にて開発・改良してきた基幹システムを、コンサル主導に全面改定することになっている。

組織に眠る暗黙知を形式知に変え、属人的なスキルや知識を共有できるよう、徹底した文書化を推進し、ナレッジ・マネジメントの推進を図っている。

まとめ

労働時間の短縮が、事業活動に負ではなく、正の改善効果をもたらす働き方改革とは何なのか。まず、利益水準を重視し、残業が無くなったことによる変化を担当役員が把握し調べる必要がある。その上で、従業員が生き生きと働ける舞台を作ることが究極の目標と考える。それが人材確保においてもセールスポイントであり、リテンション政策の目玉と捉えて働き方改革に取り組んでいる。

提案型建設で 迎えた100周年 個々の能力が共創する会社へ

アルカスコーポレーション株式会社
代表取締役社長

岩崎 弥一 氏



創業100年を迎えられました。

曾祖父の岩崎外次郎が1919年、地元河川の治水工事や砂利採取を^{なりわい}生業として創業しました。1964年に岩崎建設(株)として法人化し、土木工事から建築分野へと業容を拡大します。さらに景気の波に乗って北陸3県に進出しました。

平成の初めには売上高が100億円を超え、父は北関東で郊外型の都市開発に乗り出しますが、バブル経済が崩壊。私が入社した1995

年はそんな冷え込んだ時期でした。**入社2年後、社長に就任されます。**

会社に入ると不動産を中心とした不良資産に加え、社内の人間関係もうまくいっていませんでした。会社の再建を図るため社長に就き、不良債権の処理と同時に人的整理も進めなければいけませんでした。痛みを伴う再建策でしたので、断腸の思いで取り組みました。時間もかかりましたが、何とか乗り切ることができました。

―土地活用の提案で業績回復―

2000年にマンションのフランチャイズ（FC）に加盟されました。

当時はバブル崩壊後、デフレ基調で工事案件も少なく、収益は悪化する一方でした。予定価格と入札に縛られる建設業界で、自分で価格を決められる仕事をしようと土地活用事業に取り組みました。

1つはロードサイドの店舗開発、もう1つがアパート・マンションの開発です。営業部隊を立ち上げ、地主さん探しから事業計画の提案、設計、コンサルタントと全てやります。そこまでやる建設会社は少なく、ノウハウを学ぶためにFCに入りました。マンションは北陸で50棟以上を建設し、商業施設は今でも多くの企業と大切な関係が続く礎となっています。

さらにはこの実績が元になり、大阪の住宅メーカーから声がかかり、関西一円で、20棟以上のマンション建設を請け負いました。**高齢者向け住宅も多く手掛けられています。**

2008年のリーマンショックで関西のマンション建設がストップし、関西支店を縮小せざるを得なくなりました。現地採用の社員にも富山へ移ってもらうなど厳しい事業環境の中、土地活用のノウハウを活かして高齢者専用賃貸住宅（現・サービス付き高齢者向け住宅）を始めました。マンション同様に企画・提案型です。老人ホームやグループホームを含めると、50棟以上を手掛けています。

2009年から新社名になりました。

「アルカス」はラテン語で「虹」の意味です。お客様に笑顔を届ける架け橋となるよう、素晴らしい仕事を追求し、可能性へとチャレンジする気持ちを込めています。

ドキドキワクワクを社訓に

**6カ条の社訓の最初が「常に仕事を
楽しみ、ドキドキワクワク感を
大切にします」となっています。**

社長就任時に会社の再建のためには、会社が何を目指しているかを明確にし、社員と共有することが必要だと感じました。長かった社訓を心に届く言葉に改め、さらに10年前に今の経営に即した内容に直したものです。

**実際にはどのように人材育成を
されていますか。**

現在「エンパワー経営」を根幹に社員教育に取り組んでいます。「エンパワーメント」は一般的に「権限委譲」と訳されることが多いのですが、「勇気づける」「エネルギーを与える」という意味があります。社員の良いところを引き出し、「ドキドキ、ワクワク、イキイキ」しながら、楽しく仕事ができる会社を目指しています。

専門家の指導のもと、若手を中心に約10人のPEP(Personal Empowerment Program)チームが中心となって、心理学や行動科学に基づいたワークショップを行っています。その学びを通じて、社員が自主的に新規事業や課題解決の「共創」に取り組んで欲しいと思っています。

具体的にはどのようなことですか。

一例として、会議の席順は従来

のような序列順ではなく、若い社員からも活発な意見が出るように、意識的にバラバラにしています。社員も「社長が身近だ」と言っており、良いことだと思います。

私は細かいことに口出しせず、できるだけ任せるようにしているのですが、責任のある中間管理職の中には指示命令をする際、目的や意味を考えさせることが足りなく、任せて育てる機会を十分に与えきれていない人もいて、理想の会社にはまだまだです。

働き方改革への取り組みは？

時短や有給休暇の消化だけではなく、本質は生産性の高い会社にする事です。今、建設業は大変な人手不足で、協力会社も少なくなる中で、限られた人数で高いパフォーマンスを発揮する必要があります。よりエンパワーすることで高い生産性を実現でき、また、当社を選んで入社する人も増えてくるだろうと思っています。

もう1つはデジタルシフトです。人時生産性向上のために、来年度からICTを導入する予定です。単なる省力化だけでなく、働く人がよりクリエイティブに仕事ができるようにしたいと思います。

今後の事業展開を教えてください。

土地活用提案の1つとして、障がい者向けグループホームや就労継続支援事業所の建設を始めました。高齢者住宅と同様、誰もが笑

顔で活躍できる世の中を作りたいとの思いで取り組んでいます。

老老介護と同様、障がい者家族の高齢化なども問題となっています。日本でパラリンピックが開催される機会に、障がい者への理解が進み、健常者と共存共栄できる社会に進むよう、当社もその応援をしたいと思っています。建設だけでなく、自社でも就労支援、自立支援の新規事業を作り、新たなビジネスモデルを構築したいと考えています。

当社は建設業であることに変わりありませんが、3つの仕事をしていると考えています。「国民の生活を守る社会資本整備」、「お客様の事業の成功のサポート」、そして「社会的に困っている人の活躍のサポート」です。このドメインの中で、色々な事にチャレンジしていきたいと考えています。

座右の銘をお尋ねします。

「人生二度なし」です。教育者の森信三氏の言葉です。私は30代の時、入院したことがあり、「人生は一度きり、目の前の時間を有意義に生きていこう」と強く感じました。若い人も時間の有限性に気付いて、有意義な人生を送ってほしいと思っています。

会社概要

アルカスコーポレーション株式会社

創業：1919(大正8)年
所在地：南砺市長源寺89
資本金：2億7,624万円
事業内容：建設工事、土地活用事業、不動産業、生コンクリート・アスファルトの製造・販売、土石採取、石油類販売ほか
従業員数：87名(2019年10月末現在)
売上高：54億9,800万円(2017年12月期)
事業所：富山支店、関西営業所
関連会社：パイオニア運輸(株)、岩崎資源開発(株)
URL：<https://arcus-corp.com/>

略歴

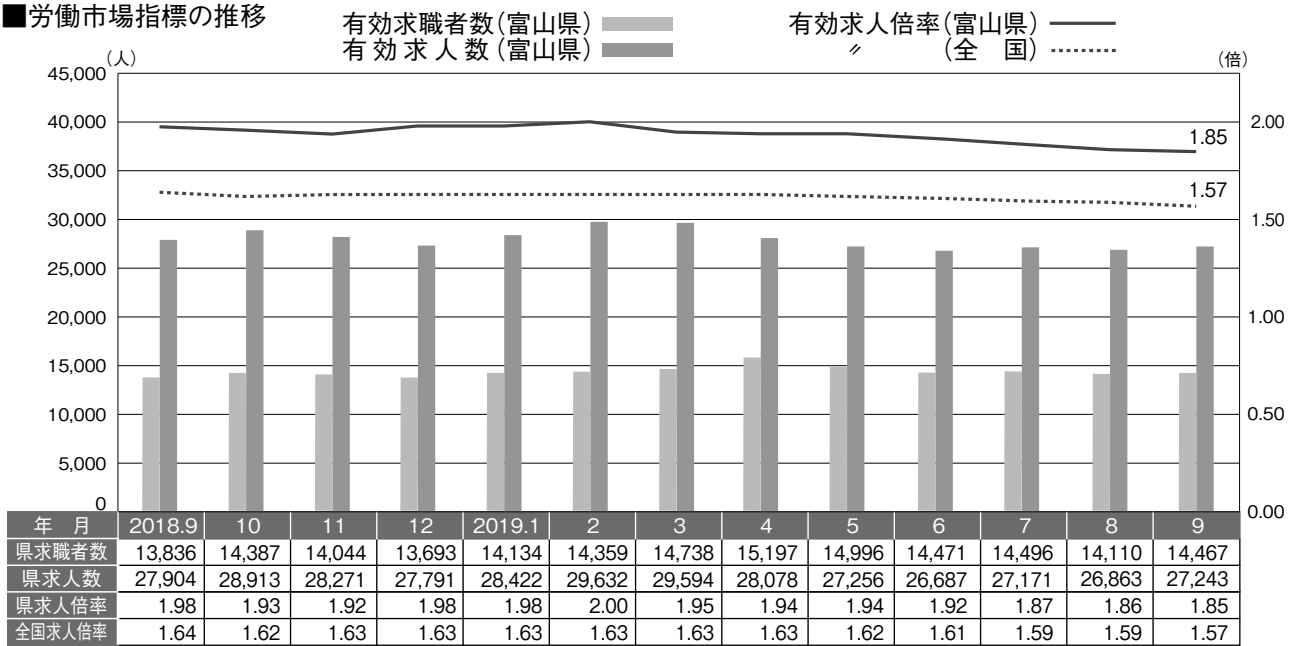
1964(昭和39)年7月、南砺市(旧福野町)生まれ。立教大学経済学部卒業後、大和証券(株)勤務、萩山教厳代議士、鈴木宗男両代議士秘書を経て、1995年岩崎建設(株)(現アルカスコーポレーション(株))入社、97年から社長。現在、富山県建設業協会理事、南砺市商工会副会長を務める。



安全パトロール中

労働指標

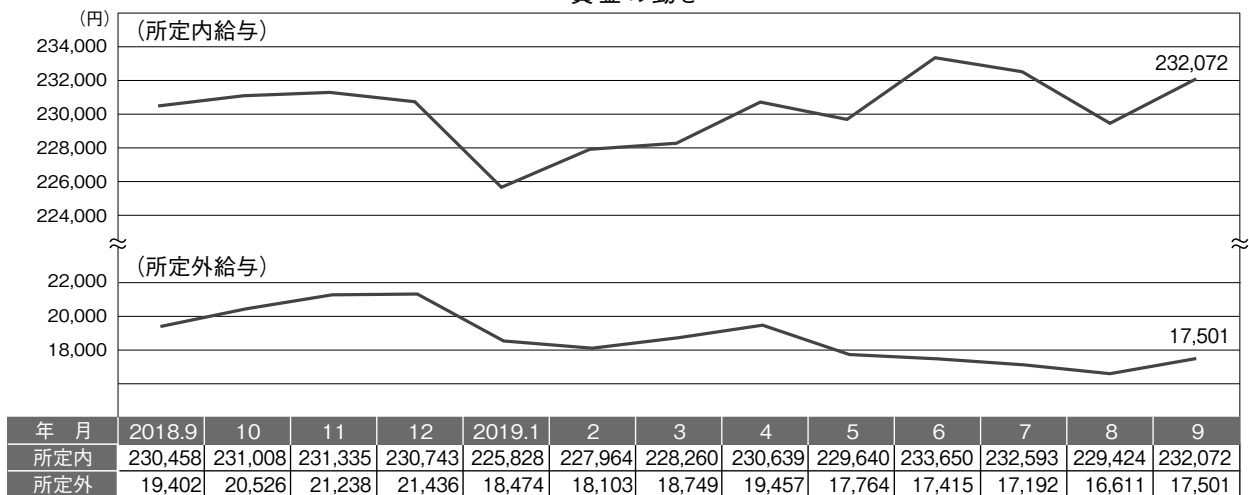
労働市場指標の推移



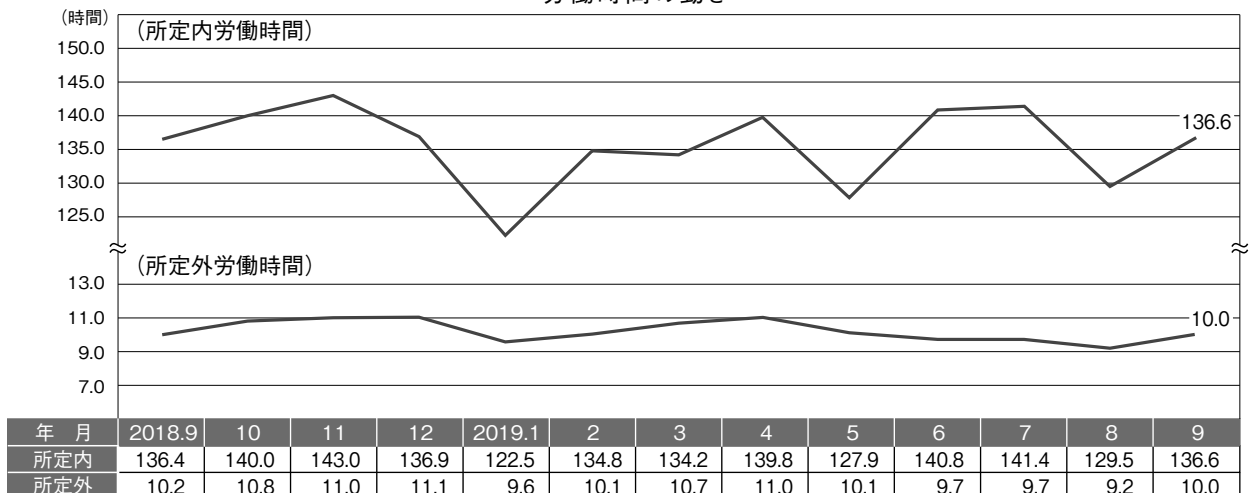
出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/maikin/index.html>

事業活動報告

2019年10月9日～12月10日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加人数
会 議	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	11月 6日(水)	タワー111ビル 21階	11名
	理事会		11月 8日(金)	ホテルグランミラージュ	9名
	東部地区会員懇談会		11月 8日(金)	ホテルグランミラージュ	113名
	品質管理委員会「幹事会」	品質管理	11月11日(月)	富山経協・研修室	7名
	教育委員会「幹事会」	教 育	11月12日(火)	タワー111ビル 3階会議室	8名
	環境委員会「幹事会」	環 境	11月15日(金)	富山経協・研修室	10名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	11月19日(火)	タワー111ビル 3階会議室	5名
	教育委員会「定例委員会」	教 育	12月 3日(火)	富山経協・研修室	21名
	環境委員会「定例委員会」	環 境	12月 4日(水)	富山経協・研修室	24名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	12月10日(火)	富山経協・研修室	32名
講演会	工場幹部のための「現場力強化と人材育成のヒント」	品質管理	11月11日(月)	富山経協・研修室	24名
会 員 交 流	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月22日(金)	富山地铁ゴールデンボウル	120名
	婚活支援イベント	総務交流	12月 8日(日)	日本海ガスショールーム Prego	18名
見 学 会	総務交流委員会「施設見学研修会」	総務交流	10月21日(月)	(株)ユニゾーン「遊心亭」	18名
	品質管理委員会「県外企業見学研修会」	品質管理	10月24日(木)～25日(金)	アイホン(株)豊田工場 三菱電機(株)名古屋製作所	14名
	環境委員会「県内企業見学会」	環 境	10月25日(金)	日産化学(株)富山工場	23名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	労務管理実務講座	人事・労務政策	10月9日・16日・23日(水)・29日(火) 11月 5日(火)	富山経協・研修室	20名
	改善力養成セミナー～業務改善・基礎編～	教 育	10月10日(木)	富山経協・研修室	36名
	ヒューマンエラー未然防止セミナー	品質管理	10月11日(金)	富山経協・研修室	53名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月17日(木)・30日(水) 11月14日(木)・28日(木)	富山経協・研修室 タワー111ビル 2階会議室 I	24名
	会議の生産性を向上するビジネス・ファシリテーター養成講座	教 育	10月24日(木)	富山経協・研修室	24名
	次世代経営者育成セミナー ～ひとしごと未来創生塾～	経営企画・IT	10月25日(金)	富山経協・研修室	6名
	若手社員実践コース	教 育	10月29日(火)	インテック大山研修センター	42名
	ものづくり女性社員のための改善力向上セミナー	品質管理	10月30日(水)	富山経協・研修室	30名
	管理職基礎コース	教 育	11月 6日(水)・ 7日(木)	富山経協・研修室	52名
	ヒューマンエラー対策講座<実践編>	品質管理	11月12日(火)・13日(水)	富山経協・研修室	27名
	管理職マネジメント研修	教 育	11月19日(火)	富山経協・研修室	18名
	労働法実務講座<第3回>	人事・労務政策	11月20日(水)	富山経協・研修室	38名
	働き方改革を推進する業務仕組み化セミナー	教 育	11月21日(木)	富山経協・研修室	18名
	変化点管理の考え方・進め方セミナー	品質管理	11月26日(火)	富山経協・研修室	47名
残業削減に向けたホワイトカラー業務の効率化	教 育	12月 3日(火)	富山経協・研修室	40名	

総務交流委員会

■会員交流ボウリング大会

11月22日(金)、富山地鉄ゴールデンボウルで開催した。平日の夕刻にもかかわらず、30チーム120名の参加者を迎えることができた。

参加最年長者の(株)チューエツ立浪定雄氏による始球式の後、一斉に競技が始まり、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で熱戦が繰り広げられた。

1フレームごとに左右のレーンで交互に投球する「アメリカン方式」を採用したため、隣レーンのチームとの交流が深まり、ストラ

イクやスペアの際のハイタッチが随所に見られ、大きな歓声がホールに響き渡った。

ゲームは1チーム4人の2ゲーム合計スコアで競う団体の部と、各人2ゲーム合計スコアで競う個人の部で行われたが、女性と男女問わず65歳以上には1ゲーム20ピンのハンディを適用した。

主な成績は下記の通り。団体の部はアイシン軽金属(株)チームが優勝した。個人の部は武内プレス工業(株)遠藤雅博氏が優勝した。表彰式では、自社参加チームの応援に

駆けつけた総務交流委員会副委員長の北日本放送(株)取締役社長室長の島谷浩司氏に各賞のプレゼンターを務めていただいた。



団体優勝のアイシン軽金属チーム

個人優勝の遠藤さん ▶



<上位成績>

(団体の部)	会社名
優勝	アイシン軽金属(株)
準優勝	武内プレス工業(株)
3位	(株)リッチェル

(個人の部)	氏名
優勝	遠藤 雅博 (武内プレス工業(株))
準優勝	栗原 一男 (富山電気ビルディング(株))
3位	半井 達也 ((株)チューエツ)

■第10回婚活支援事業

12月8日(日)、日本海ガス(株)ショールーム Prego で、通算して10回目の婚活支援事業「Cheese de Afternoon Tea Party」を、男性13名、女性5名、合計18名の参加者を得て開催した。

講師にワインカフェ「51 シンク

エンタウノ」のマダム・佐藤淑子さんを招き、講師によるデモンストラクションを行った後、男性4~5人と女性1~2人ずつの6人1組の3チームに分かれ「チーズプレート」作りにチャレンジした。和気あいあいとした雰囲気の中、季節のチーズや果物等をふんだん

に使い、チームごとにオシャレなプレートが完成した。

続いてのパーティでは、歓談を中心に、チーズの盛り合わせや飲み物をいただきながら、参加者は楽しいひとときを過ごした。参加者同士の素敵な出会いを演出した中、3組のカップルが成立した。

人事・労務政策委員会

■幹事会

11月19日(火)、八十島委員長はじめ副委員長、幹事5名が出席し、タワー111ビル3階会議室で開催した。

八十島委員長の挨拶後、事務局より2019年度事業の経過報告を行い、今後の事業予定として2月定例委員会では、大学等との情報交換会を行うこと、2020年度事業計

画(案)として、各定例委員会においては、経団連などを招いた講演会及び情報交換会や企業見学会等を実施すること、人事・労務管理セミナーについては、2020年度協会活動テーマや委員会参加企業へ実施したアンケート結果等を参考に、第1回は「エンゲージメント向上セミナー」、第2回は「人事・賃金制度設計セミナー」を実施す



ることを、12月定例委員会に諮ることで決定した。

教育委員会

■ 幹事会

11月12日(火)、松原委員長はじめ幹事8名が出席して、タワー111ビル3階会議室で開催した。

松原委員長挨拶後、2019年度年間事業報告を行った。次に、2020年度の定例委員会の活動内容について審議した。定例委員会6月・

8月・12月・2月のうち、教育制度見学会を6月・2月に開催し、その見学会補先について提案を頂いた。8月・12月の事業計画(案)については各幹事から出た意見をもとに、12月の定例委員会で諮ることが承認された。



■ 定例委員会

12月3日(火)、富山経協・研修室で、定例委員会に合わせて勉強会を開催した。

第一部は、松原委員長はじめ40名が出席して、(公財)日本生産性本部 主席経営コンサルタントの矢島浩明氏を講師に招き、働き方改革推進の一助となる勉強会「残業削減に向けたホワイトカラー業務の効率化」を開催した。

第二部では、松原委員長はじめ21名が参加して、定例委員会を開

催した。松原委員長の挨拶後、事務局より事業実施報告をし、定例委員会の活動内容と講座・セミナーの受講状況について説明した。研究部会テーマ「管理職教育の研究」については、管理職研修の見直し(再構築)に取り組み、その成果を近江部会長が報告した。続いて、2020年度の定例委員会は、働き方改革関連の講演会や勉強会を開催すること、見学会の開催、講座・セミナーについては管理職向けの新設講座やリニューアルセ



ミナーなどが審議の上、承認された。

次回の定例委員会は、2020年2月28日(金)三菱ケミカル(株)富山事業所での教育制度見学会と合わせて行う。

品質管理委員会

■ 幹事会

11月11日(月)、谷川委員長はじめ幹事7名が出席して富山経協・研修室で開催した。

幹事会に先立ち、(株)日本能率協会コンサルティング TPMコンサルタント 和泉高雄氏を講師に招き、工場幹部のための「現場力強化と人財育成のヒント」をテーマに特別講演会を開催し、24名が参加した。

幹事会では谷川委員長が挨拶し、2019年度事業活動報告を行った後、2020年度の事業計画につ

いて審議した。委員会活動については、定例委員会の9月と12月はグループディスカッション形式、7月と2月は見学会形式を基本に4月の幹事会で検討すること、11月の幹事会では特別講演会を併催すること、講座・セミナーについては「ISO9001 内部監査員養成講座」を年2回開催することなど、事業計画(案)について12月の定例委員会で諮ること承認された。



委員会活動

■ 定例委員会

12月10日(火)、谷川委員長はじめ委員・担当者合わせて32名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

谷川委員長挨拶の後、2019年度の事業活動報告と2020年度の事業計画について審議した。

2019年度は前年度に引き続き、定例委員会でのグループディスカッション、委員企業見学会の実施や講座の担当委員制実施等に取り組んだ。また、講座・セミナーでは、開講した13講座について募集人員を上回る講座も多

く、順調に推移していることが報告された。

2020年度の委員会活動は、基本的には2019年度を引き継いで進めていくこととし、具体的な活動内容は4月の幹事会で検討すること、講座・セミナーは「ISO9001内部監査員養成講座」を年2回開催することなど事務局案で承認された。

会議の後、「品質管理・品質保証部門の役割発揮における現状の問題・課題とは何か、どう改善すべきか」をテーマに、委員・担当者が5班に分かれ、活発なディス



カッションを行った。

環境委員会

■ 幹事会

11月15日(金)、尾島委員長はじめ幹事10名が出席して、富山経協・研修室で開催した。

尾島委員長挨拶の後、事務局より2019年度の事業実施報告をした。当年度の課題は、中小企業の省エネ経営普及のため、「省エネセミナー」を新設したが、規模の大きい会社からの参加が多く、中

小企業の新規参加が課題として挙げられる。

協会活動テーマ・上記課題を踏まえ、2020年度事業活動の県外企業見学先や、SDGs勉強会・省エネセミナーの継続実施・富山県機電工業会との共催事業などについて、12月4日(水)の定例委員会で諮ることが承認された。



■ 定例委員会

12月4日(水)、富山経協・研修室で、定例委員会に合わせ環境取組み事例発表会を開催した。

第I部事例発表会には、尾島委員長はじめ24名が出席して、北陸電力(株)営業本部室スマートビジネス推進チーム チーム統括課長 田辺大太郎氏から「災害対応力強化を含めたエネルギーマネジメント技術の開発とVPP(バーチャルパワープラント)実証の取組み」と題して、(株)トヨックス経営企画室

部長 金城慶太氏から「お客様のお役立ちにつながる省エネ対策」と題して、北陸コカ・コーラボトリング(株)広報環境部部長 山本克彦氏から「廃棄物ゼロ社会を実現するための取組み」と題して発表していただいた。

第II部の定例委員会では、尾島委員長が挨拶した後、事務局より2019年度の事業実施報告および課題を踏まえ、2020年度の事業計画案を審議した。来年度は今年の事業活動に引き続き、新規で8月に



勉強会「SDGsセミナー(仮)」を開催することが承認された。

次回活動は、2月に(株)トヨックスを見学する予定。

経営企画・IT委員会

■定例委員会

11月6日(水)、牧野委員長はじめ委員11名が出席してタワー111ビル21階会議室で開催し、2019年度事業実績報告及び2020年度事業計画(案)について審議した。

牧野委員長の挨拶後、事務局より2019年度の事業活動の「中小企業における健康経営」と、9月6日から開講した「次世代経営者育成セミナー」の中間報告をした。

また、富山県主催「スマートものづくり人材育成」について、企画・集客の支援を受託したことや、富山地区会員懇談会で「誤解の多い働き方改革」を富山県総合政策局少子化対策・県民活躍課と共催で実施したことなどを報告した。

次に、2020年度の協会活動テーマ(案)について審議し、各委員から意見を聞いた上で、テーマは「エンゲージメントを高めるさらなる



働き方改革」に決定した。

次回委員会は2020年2月7日(金)に開催し、2020年度事業計画について審議する。

講座・セミナー

階層別研修

■若手社員実践コース

10月29日(火)、42名が参加して、インテック大山研修センターで開催した。

本研修は、社会人生活5年程度の若手社員を対象に、自身で論理的に物事を思考することができ、課題を発見できる「考え抜く力」と「周囲に働きかけ実行する」コミュニケーション力を学ぶことを狙いに開催した。

講師の(公財)日本生産性本部風

土改革コンサルタント石川歩氏が、論理的思考力および問題解決ステップと技法について、具体的に手順とポイントを解説した。ケーススタディでは学んだポイントと業務改善のケースを結びつけ、課題解決の手順、問題解決のステップ、問題解決プロセス(業務改善)を確認するとともにコミュニケーション力の向上とチームワークのポイントを学んだ。異業種の参加者との討議となった



が、テーマを「飲食店の業務改善」と身近なものに設定したことで、活発な議論が行われた。

■管理職基礎コース

11月6日(水)～7日(木)、52名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

本研修は、部下の能力開発・発揮させるポイントや、部下が自ら考えて動けるチーム作りのノウハウ習得をねらいに開催した。講師の(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタント中間弘和氏が、①管理者の役割と要件、②業績向上のマネジメント、③部下育成のマ

ネジメント、④組織力強化のマネジメント、⑤変革と推進のリーダーシップについて、具体的事例や自身の体験談を交えて解説した。グループディスカッションでは、部下の育成について、目標管理や人事考課の目的と仕組みを確認するとともに、VTRのケースを用いて部下指導のあり方や部下とのコミュニケーションを検討した。また、他社の管理職社員と取り組むことによって相互啓発・人



脈づくりに繋がった。受講者からは、「管理職のあり方を再認識できた」「テキストのみでなく、講師の事例が豊富で聞いていて参考になった」と好評の声が伺えた。

共 通

■改善力養成セミナー

～業務改善・基礎編～

10月10日(木)、36名が参加して富山経協・研修室で開催した。

改善コンサルタントの東澤文二講師は、経営環境の激変期こそ改善活動の強力な推進が必要であり、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が大切であるとした上で、問題の裏返しや見える化などの改善の方

程式・定石・公式について、工場や店舗などの様々な事例を通して学んだ。また、改善の定着化、活性化を図るには、改善事例と定石の組み合わせの大量蓄積が重要であるとした上で、改善メモを短時間で作成する演習を行い、まずは職場で実践してみることが重要であるとした。

来年3月12日(木)には、改善活動を「指導・推進・牽引」するため



の具体的ノウハウを研究し、改善エキスパートを養成する「改善レベルアップセミナー〈業務改善・応用編〉」を開催する。

■会議の生産性を向上するビジネス・ファシリテーター養成講座

10月24日(木)、24名が参加して富山経協・研修室で開催した。

本研修は、会議におけるファシリテーションのスキルとマインドを理解し、自社の会議やプロジェクトで進行役の役割を果たせる人材を育成することを狙いとして開催している。講師の寺沢俊哉(公

財)日本生産性本部主席経営コンサルタントは、ロールプレイ実習を用いて①「対話の基本」のスキル、②会議を企画する「しこみ」、会議を進行する「さばき」のポイントを実践的に伝え、③わが社の会議を見直しについて、具体的なポイントを踏まえ解説した。

グループに分かれて、活発な実習を行い、最後に実際の事例を学



び、会議について見直した。

参加者NOTES

「会議の生産性を向上するビジネス・ファシリテーター養成講座」を受講して

アルコット株式会社
働き方改革推進室

佐々倉 麻理子



良い会議をするためには、「ライブメソッド」という心を動かし、行動をうながす技術を身に付けることが重要です。その中でも「企画力」「進捗力」「対話力」を順番に進めることが必要なのですが、今までの自分はその中の「対話力」ばかり注視し、強化しようとしていました。ファシリテーションの大切な原則や企画、進行といった事前準備が甘い状態だったのです。それらの事前準備が足りなかったから迷いや不安があったのだと気づくことができました。例えるな

ら、役者が原作や台本が無い、あるいはあまりそれを読まない状態で舞台に立つのと同じです。不安になるのは当然です。

よって今後は、講座で学んだ「ライブメソッド」を意識し実践していきたいと考えています。特に「企画力」を身に付ける訓練として、タイトルや根拠などを企画する「たこさあかすのワンシート企画書」を事前に作成する習慣を大切にしていきたいです。実際に、企画書の一部ではありますが、会議のゴールを明確に参加者と共有し

ただけでも、会議終了後の達成感や次のステップへの意識が変わったという実感が持てました。そしてそれが自信になり、会議の進行に対する不安や迷いが払拭されるというプラスの変化を感じています。

最後に、「対話の場(会議や研修)は、ピットイン」です。F1のマシンが整備を終えピットインから出ていくように、会議や研修が終わった後、参加者がモチベーションを高め、エネルギーに溢れた状態で部屋を出ていける。講師がおっしゃったこのフレーズも忘れず、私もピットインの価値を高めることができるファシリテーターを目指し、この講座で学んだことをアウトプットし、対話の場に関わっていきたいと思っています。

■ ヒューマンエラー

未然防止セミナー

10月11日(金)、53名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の中央大学理工学部経営システム工学科の中條武志教授から「ヒューマンエラー未然防止」の考え方と方法論を中心に、ヒューマンエラーを引き起こす人の特性、

ヒューマンエラー防止の原理と方法、作業に潜在するヒューマンエラーの危険の洗い出し方、エラープルーフ化の原理、対策案を評価・選定する方法を含め、ヒューマンエラー未然防止活動を自分の職場・チームで進める場合の注意点などについて、講義・演習・発表を通して学んだ。



■ ヒューマンエラー対策講座

<実践編>

11月12日(火)・13日(水)の2日間にわたり、27名が参加して富山経協・研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部 主席経営コンサルタントの矢島浩明氏は、ヒューマンエラー対策は安全管理に始まり品質管理の領域でも多くの研究がなされてきたが、「人はエラーをするもの」であることは不変であり、現状でも絶

対的対策は困難と考えられていることから、日常的な活動を通じて意識を高め、維持していくことが大事であるとして、安全管理の基礎知識やヒューマンエラーの分類と防止対策について講義した。

ケーススタディでは「安全管理とヒューマンエラー」、「原因追求と再発防止」、「不良率低減とヒューマンエラー防止」、「自社のヒューマンエラーについて考える」の4つのテーマについてグ



ループ演習を行い、異業種の受講者たちが共通テーマでお互いに気づき、学び合うことで活発な議論が行われた。

■ 働き方改革を推進する

業務仕組み化セミナー

11月21日(木)、業務の生産性向上・働き方改革を推進する担当者18名が参加して、富山経協・研修室で開催した。日本のサービス産業の生産性向上が喫緊の課題であることを受けて開催した。

初めに(株)良品計画の上原店長が「MUJIGRAM」の先進事例を紹

介した。その後、(公財)日本生産性本部 主任経営コンサルタント 鍛治田良氏が、「従業員のためではなく、企業のため」とし、マニュアルと業務基準書の違いや他社の事例を交えながら一つひとつの作業を「何のために」するのかを説明した。

演習では実際の作業を映像で確認し、作業基準書を作成するワー



クを行い、実践的な業務仕組み化の手法を学んだ。

■ 残業削減に向けた

ホワイトカラー業務の効率化

12月3日(火)、40名が参加して富山経協・研修室で開催した。

本研修では「残業問題は管理職の責任である」ことの重要性と残業問題の解決の糸口をつかんでもらうことをねらいに開催した。

講師の矢島浩明(公財)日本生産性本部 主席経営コンサルタント

は、ホワイトカラーの生産性向上、特に間接業務に焦点をあて、残業削減に向けた基本的な考え方について説明した。残業削減に向けた業務効率化のポイントとして①問題の可視化/見える化、②多角的な視点からの検討、③中長期的な時間軸での対策の推進、④適切な動機付けなどの職場内の改善アプローチ方法について実際の事例を



交えてわかりやすく説明した。

品質管理

■実践しながら学ぶ

統計的手法活用講座

5月23日(木)から富山経協・研修室で開講した「第63回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、11月28日(木)に15日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理(SQC)の手法を学び、自職場での問題の解決を図るべく、その実践的な活用方法を習得することをねらいとしている。職場で起きている身近な問題を上司とキャッチボールのうえテーマとし、グループ別にカウンセリングを受けながら、品質管理手法を駆使して問題解決

に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することが修了基準の一つとしている。

最終日の28日には、先に開催された論文審査会で講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表後、講座全体を通して総合評価上位3名が優秀賞の表彰を受け、受講24名全員が無事修了証を手にした。



〈優秀論文〉 宮島 一樹さん (アイシン軽金属株)

大西 正紘さん (コーセル株)

布村 英大さん (中越合金鑄工株)

〈優秀賞〉 水上慎太郎さん (コーセル株)

明翫 高志さん (アイシン軽金属株)

楠 真吾さん (富士フィルム富山化学株)

〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属株、コーセル株、サンエツ運輸株、株)タカギセイコー、中越合金鑄工株、株)リッチェル



参加者NOTES

「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」
を受講して

コーセル株式会社
CS開発部 CS課

水上 慎太郎



私は、直流安定化電源を製造販売しているコーセル株でCS開発部に所属しており、国内・海外のお客様からの技術問い合わせの対応や製品提案の業務に携わっています。

コーセルではQC活動に力を入れており、入社してから品質管理に関する教育や統計手法を学ぶ機会は多くなりましたが、学んでから活用するまでに年数が経ってしまったことや、QCサークルリーダーを務めている中で、もう一度基礎から学びなおし、実業務への活用と後輩指導に役立てたいという思いから受講しました。

講座では、品質管理の基礎的な

考えから、最適なツールの使い方、解析方法などを具体的な演習を通じて学ぶことができました。生産状況や品質を管理するための管理図やパレート図の作り方など基礎的なことに加え、検定・推定や分散分析など専門的な手法を実際に手を動かして使用してみること、改めて理解が深まり、実務での活用方法をイメージしながら講義を受けることができました。また、講師の方々も実際に現場で品質管理に携わっておられる方や経験豊富な方々が丁寧に説明してくださるので、非常に多くのことを習得できたと思います。

また、研究テーマ論文を作成す

るにあたり、講師の方や社外の方とグループディスカッションをする時間が定期的に設けられていたのですが、ここでは異業種の方との交流を通じてとても多くの知見をいただくことができました。また、社外の方のお話や仕事内容など貴重な意見交換の場となり、多くの刺激をいただきました。

講義の中でも講師の方がおっしゃっていたのですが、業種が異なっても統計という共通語を用いることで、現場の状況や困り具合などをスムーズに共有でき、有意義な議論ができることが実感できました。グループディスカッションを通じて様々なご意見をいただき、社内の改善活動につなげることができました。

今後は今回学んだ統計手法を社内の改善活動や品質向上、後輩指導等に役立て、会社に貢献できるよう頑張りたいと思います。

■ものづくり女性社員のための 改善力向上セミナー

10月30日(水)、ものづくり企業で働く女性社員30名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の高林るみ子(株)日本能率協会コンサルティング TPMコンサルタントは、現場においても女性社員の活躍がますます求められていることから、女性社員の活躍

に必要な環境づくりや現場活性化の「仕掛け」・「仕組み」づくりについて、①改善活動概論、②生産活動の基礎知識、③5S活動の進め方、④改善活動の基礎知識を、女性ならではの事例など用いて、講義と演習を通じて学んだ。また、グループ演習では不具合や改善の見える化の役割を担う、自主保全活動には欠かせない「エフ付け」に



ついて、実際の現場写真に付箋を貼って体験し学んだ。

■変化点管理の考え方・進め方 セミナー

11月26日(火)、47名が参加して富山経協 研修室で開催した。本セミナーは、変化点を管理し対処することが品質不良撲滅や事故未然防止に繋がることから本年度新たに企画した。

講師の(一社)中部産業連盟 主席コンサルタントの山崎康夫氏は、変化点管理とはMan(人)、

Machine(設備)、Material(材料)、Method(方法)、Environment(環境)の5つに対し、品質不良が発生する前に品質の変化を確認し、問題があれば未然に手を打つことであるとした上で、①製造現場での品質管理、②リスク管理と変化点管理、③タートル分析による異常管理の方法、④設備故障の未然防止、⑤見える化で異常発見能力向上の5つの内容について、講義



とグループ演習を通じて考え方や進め方を学んだ。



参加者NOTES

「変化点管理の考え方・進め方セミナー」 を受講して

日本カーバイド工業株式会社
魚津・早月工場 製造部成形材料グループ 野村 弘明



私の職場では成形用樹脂を製造しています。品質不良や設備トラブルを撲滅するため、管理方法を学びたいと思い参加しました。

セミナーは品質管理における変化点管理で、変化を確認し問題があれば未然に防ぐ手法についての内容でした。冒頭で生産現場における改善活動の体系について説明を受け、ISO9001、5S活動、見える化、設備管理など、以前から実施しているため内容も理解しているつもりでしたが、活動が相互に関係し同じ目的に繋がっているという考え方が不足していることに気付かされました。

製造現場の品質管理についてはプロセスごとにPDCAを確実に行うことが基本であり、製品安全に関する重大なリスクについてはリスク管理が必要であることは、事例紹介を交えた説明で重要性を再認識しました。また、不良発生の原因の一つであるボカミスは、職場の決めごとが不明確であることや5Sができていないことも密接に関係しており基本的な活動の大切さを改めて実感しました。職場でも見直したいと思います。

変化点管理については自社の4M変更の規定に従い管理ができていたと思っていましたが、職場の

生産活動で日々生じる様々な変化点についても確実にとらえることの重要性和確実に管理することが品質不良を未然に防ぐために重要であると学びました。VMボードを活用し見える化することでより確実に作業員への周知ができ管理できると感じました。

設備管理は自主保全活動で維持管理できるようにシステム化を図ることが重要で、特に重点設備について維持管理体制を確実に構築する必要性を感じました。

これまでは社内の様々な活動について個別の目的を実現することで満足していましたが、セミナーを通して活動のポイントを理解できたと同時に、これらの活動が生産システムを構築するための手段であり、全て整って初めて生産現場全体の本来達成すべき目的が実現できることを再認識しました。

労務管理

■ 労務管理実務講座

10月9日(水)から全5回開催した講座は11月5日(火)、20名の参加者全員が修了した。

第1回では、泉崎労務コンサルティングの松浦辰夫代表が「企業経営における労務管理」と題して、①労務管理に関する法律、②就業規則等の整備、③「働き方改革」関連法の対応等を解説した。第2回、3回では、島崎裕美子社会保険労務士が「労災・雇用保険実務にかかる諸問題」「社会保

険にかかる諸問題・企業経営で活用できる助成金」と題して解説した。第4回、5回では小股清香弁護士が「労務管理上のトラブル防止その1」「労務管理のトラブル防止その2」と題して解説した。

受講者はグループワークで事例について議論を交わしながら労務管理にかかわる諸問題について学んだ。



■ 労働法実務講座(第3回)

11月20日(水)、「2020年4月施行『同一労働同一賃金』の問題に企業としていかに対応するか」をテーマに、38名が参加して富山経協・研修室で開催した。

第一協同法律事務所の伊藤昌毅弁護士が、①(改正)パートタイム・有期労働法のポイント、②「同一労働同一賃金ガイドライン」の内容と疑問点、③正社員と非正規(有

期、パート等)との均等・均衡待遇を巡る諸問題—現役世代の場合と定年後再雇用の場合の違い、④使用者として非正規雇用をどのように使っていくことになるのかについて解説した。

講義では、長澤運輸事件の最高裁判決とその前後に出された下級審裁判例の分析と、使用者の今後の対応や、定年後再雇用での使用者による労働条件提示を高年法違



反としたトヨタ自動車事件、九州惣菜事件両高裁判決と使用者の今後の対応等について具体的な解説があった。

見学会

総務交流委員会

■ 施設見学研修会

10月21日(月)、矢野委員長はじめ18名が参加して、(株)ユニゾーン砺波研修所「遊心亭」で開催した。

講演として、(株)ユニゾーンの梅田ひろ美代表取締役会長から、経営理念やCSR活動をはじめ、「遊心亭」を設立した経緯等を聞き、美の感性も含め、もったいない精神から古民家を再生したことなど、感動的な話を聞くことができ

た。その後、研修所内を自由見学した。

日本文化や砺波地方の伝統的家を保存活用した施設を見学しながら、参加者からは次々と質問が飛び出し、一つひとつに丁寧な回答があった。広い敷地に、和の心でしつらえられた各部屋は落ち着きがあり、無になれる場所が多く、従業員は心を癒されながら研修を受けることができ、自然にコミュ



ニケーションが生まれるとても良い研修環境であると感じた。

品質管理委員会

■ 県外企業見学研修会

10月24日(木)～25日(金)の2日間の日程で愛知県に赴き、14名が参加した。

初日は、住宅向けインターホン・ドアホン、ナースコールなどの製造販売メーカーであるアイホン(株)豊田工場を訪問した。同社では、生産進捗状況、仕掛かり状況、不具合状況などが製造現場内でリアルタイムにグラフ化されるなど見える化・スマート化が進んでおり、多品種・少量の製品をセル生産方式で効率的に生産していた。また、全社一丸で製品、サービス、業務、

人材などあらゆる分野の品質向上に取り組み、1981年以来2度目のデミング賞を受賞していた。

2日目は、三菱電機(株)名古屋製作所を訪問した。同所はI o Tを活用した次世代のものづくりを実現するFA統合ソリューション「e-F@ctory」を導入しており、生産現場の生産状況・品質・省エネ・安全性・セキュリティをリアルタイムで複数拠点を監視し、工場運営の見える化を実現していた。また、タブレット端末を活用した組立作業支援システムを導入するなどヒューマンエラー防止にも活用



していた。

参加者は2日間の行程を通して、品質管理先進企業を実際に見て体感することができた。参加者間での情報交換も活発に行われ、有意義な研修会であった。



参加者NOTES

「県外企業見学研修会」に参加して

三協立山株式会社 三協アルミ社
生産品質管部 生産品質管理課

橋本 英毅



今回、愛知県での企業見学研修会に参加させて頂きました。当社は住宅、ビル、エクステリア製品を製造し販売するアルミ総合建材メーカーです。私は、他社工場を見学する機会がなかったので、今回が初の見学となります。見学先の2社は、電子部品を使用した精密機器の製造企業で、当社とは業種が異なる事から、参考になる事例に気づけるかが不安でした。

1社目のアイホン(株)豊田工場は、インターホン業界のシェアトップを維持されています。生産ラインに入ってまず、作業されている人が少ないと感じました。それも当然な事で、インターホンの心臓部となる約2,000点以上にもなる電子回路基板を一から製造されていて人による確認が不可能なため、画像検査などは自動制御設備

で行い、人が携わるのは設備のオペレータなど限られた箇所になるからでした。

驚いた事は、部品の受入れから製造して出荷する間に、抜き取り検査2回と全数検査4回の計6回も実施されている事でした。それでも年間数件のヒューマンエラーが発生しているとは意外でした。

2社目の三菱電機(株)名古屋製作所は、名古屋ドームの6.5個分に相当する敷地面積を有し、三菱電機(株)のマザー工場としてFA制御機器の製造が主流です。今回、見学させて頂いた生産ラインはシーケンサ(順序制御装置)を製造しており、当然こちらも電子回路基板を一から製造されていましたが、一番の目玉はFA技術とIT技術を連携させたFA総合ソリューション「e-F@ctory」の導入による

工場運営の「見える化」でした。

生産現場の生産性・品質・省エネ・安全性・セキュリティの面を、制御装置からリアルタイムでデータ情報をエッジコンピューティングに吸い上げて、データの1次処理として分析や診断を実施しながらデータ情報を連携してSDCAを回す事で工場全体をリアルタイムで監視しています。更に、人による部品付け工程では作業支援システムを導入し、部品の取付けミスやモレなどのヒューマンエラーをIT技術で補助して稼働率の安定化を図っています。

当社でも生産ラインの見える化として、変化点ボードで4M(人・材料・機械・方法)に変化が発生した場合は紙に記録を残していますが、記入モレなどがあると正確ではない事から、設備投資の問題はありますが見習うべきだと感じました。

今回、他社の品質の取組みに触れる事ができて良かったと思いました。今後、また機会があれば参加したいと思います。

環境委員会

■ 県内企業見学会

10月25日(金)、江田副委員長はじめ23名が参加して、日産化学(株)富山工場で開催した。

西田富山工場長から挨拶後、沖川総務部長より会社概要等の説明を受け、ビオトープと公園が融合した「ビオパーク」を見学した。

説明の中で、同社は二酸化炭素排出削減の取り組みに加え、プール・浄化槽などの殺菌剤に用いられている「ハイライト」や、ディーゼル車の大気汚染の低減に欠か

せない高品位尿素水「アドブルー」など、環境配慮型製品を生産しているとの紹介があった。

また、生物多様性の取り組みを推進しており、その1つとして2008年に「ビオパーク」を設置。従業員とOB・OGなど関係者や、地域の人々で管理し、絶滅危惧種であるニホンメダカの繁殖や、ホタルやカブトムシの育成などに取り組んでおり、同パークで小学生の自然観察学習が行われるなど、地域とのコミュニケーションの場



として活用されていた。

見学の後、同社の環境への取り組みについて活発な質疑応答を交わした。

会員の動き

(50音順)(敬称略)

■ 代表者の変更(窓口代表者)

ナチ精工株式会社

代表取締役社長 畑 保則(前:田村真史)

株式会社ナチ日本海ベアリング

代表取締役 折口 鉄治(前:西尾英一)

日本安全産業株式会社

代表取締役社長 藤井 義晴(前:宮嶋一豊)

株式会社福井銀行 富山支店

富山エリア統括店長兼富山支店長 長谷川慎治
(前:高木伸一郎)

■ 所在地変更

株式会社新日本コンサルタント

富山市奥田新町1番23号(前:富山市吉作910番地の1)

株式会社富山銀行

高岡市下関町3番1号(前:高岡市守山町22番地)

秋の叙勲ご受章おめでとうございます

旭日小綬章

河上金物株式会社
代表取締役社長 河上彌一郎 氏

旭日小綬章

北陸酒販株式会社
代表取締役社長 酒井 道行 氏

旭日双光章

一般財団法人北陸予防医学協会
理事長 永田 義邦 氏

瑞宝双光章

株式会社スリー・ティ
代表取締役会長 江尻 昭 氏

旭日単光章

東亜電工株式会社
代表取締役会長 辻田 恵一 氏



表紙の花
ダイダイの実

(富山県中央植物園 中田政司)

正月飾りに使われる理由

鏡餅の上に乗せて正月飾りに使われるダイダイは、インド・ヒマラヤ地方が原産で、日本には古く記紀の時代に中国から渡来したといわれています。

初夏に白い花が咲き、冬に黄色く熟しますが、その色が「橙色」の色の名前になりました。しかし、放置すると果実は冬の間にも着色しはじめ、春には緑色に戻って落下せず、そのまま2、3年木に着いたままになります。このように新旧代々の実が枝先に混じることから「ダイダイ」という名前が着いたといわれ、子孫繁栄に通じる縁起の良い果物ということで、正月飾りに使われるようになりました。

果皮や花から精油を抽出

ダイダイの果汁は酸味と苦味が強いので、そのままでは食べられません。ポン酢などに加工

して利用されるほか、果実にペクチン質を多く含むことから、マーマレードの原料として適しています。

果実の皮を乾燥したものは橙皮（とうひ）と呼ばれる生薬で、去痰・健胃の薬効があるとされ、漢方で用いられます。

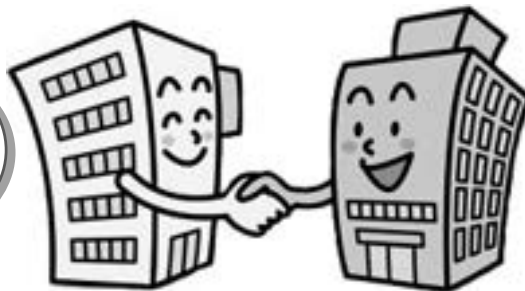
ダイダイは十字軍の時代にヨーロッパにも伝わり、精油成分が利用されてきました。果実の皮からは、低温圧搾や水蒸気蒸留法によってオレンジ油が抽出され、香料・医薬品の原料となります。最近ではアロマテラピーでも利用され、リラクゼーション効果があるといわれています。また花からはネロリと呼ばれる精油が抽出され、香水やオーデコロンに用いられています。



▲ ダイダイの花

企業間の人材マッチングを支援しています。

人材が不足しており、
補充を検討
されるとき



人員に余剰感があり、
雇用調整を検討
されるとき

まっ先にご相談ください。



公益財団法人

企業間の出向・移籍の専門機関 1987年(昭和62年)設立

産業雇用安定センター

富山
事務所

〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F
ご利用時間/9:00～17:00 (土・日・祝日は休み)

TEL 076-442-6900

FAX 076-439-2860

全国ネットの人材情報
最新情報をお届けしています。

<http://www.sangyokoyo.or.jp/>

2020年

新春互礼会



(ご案内済み)

2020年 1月6日(月) 16:00~17:30
(受付: 15:30~)

場 所: 富山第一ホテル 3階 天平の間
富山市桜木町10-10 電話(076)442-4411

石川県知事ならびに行政の責任者の皆様をお招きして、
県内経済5団体合同で開催します。

- ・(一社)富山県経営者協会
- ・富山県商工会議所連合会
- ・富山県商工会連合会
- ・富山経済同友会
- ・富山県中小企業団体中央会

幹事会

(別途ご案内申し上げます)

2020年 3月6日(金)
16:30~

場 所: 富山電気ビル 4階 光の間
富山市桜橋通り3-1 電話(076)432-4111

<内容>

- ・2019年度事業報告
- ・2019年度収支見通し
- ・2020年度暫定予算

事業予定

2019年 12月12日~2020年 2月15日

詳しくはホームページ(<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所
会議	12月16日(月)	16:30~17:30	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	富山電気ビル
	2月 7日(金)	13:20~13:50	経営企画 IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	富山経協・研修室
会員交流	1月 6日(月)	16:00~17:30	新春互礼会 上記「おしらせ」参照		富山第一ホテル
見学会	2月13日(木)	14:00~16:00	環境委員会「県内企業見学会」	環 境	(株)トヨックス
講座・セミナー	12月12日(木)	9:30~16:30	5Sと目で見える管理実践セミナー	品質管理	富山経協・研修室
	1月15日(水) 2月14日(金)~15日(土)	9:00~17:00	管理職マネジメント研修	教 育	富山経協・研修室 インテック大山研修センター
	1月16日(木)・22日(水)・23日(木) 2月 5日(水)	9:00~17:00	品質管理入門講座<実践編>	品質管理	富山経協・研修室
	1月21日(火)	9:30~16:30	CS顧客満足基礎セミナー	教 育	富山経協・研修室
	2月 4日(火)	14:00~16:00	2020年労使交渉セミナー	人事・労務政策	富山経協・研修室
	2月 7日(金)	10:00~18:00	次世代経営者育成セミナー ~ひと・しごと未来創生塾~	経営企画・IT	タワー111ビル 21階

「富山経協」vol.850

2019年(令和元年)12月号
2019年12月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)

TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>

Eメール info@toyama-keikyo.jp